



半田市が進めるまちづくり



半田市長 榑原純夫

明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、健康やかに良き新年をお迎えのことと存じます。

旧年中は、半田市政の各分野にわたりご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年を迎えるにあたって、半田市が進めるまちづくりについてお伝えしたいと思えます。

本市では、進みつつある人口減少社会に対応するため「何度も訪れたいまち」、「ずっと住みたいいまち」、「いつかは住みたい」憧れのまちを目指した、はんだブランドの構築に取り組んでいます。

何度も訪れたいいまち

昨年末「亀崎潮干祭」が「山・鉢・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録され、全国、そして世界に発信されました。

これを機に全国から多くの観光客にお越しいただけるまちとして亀崎の地域づくりを進めてまいります。

また、国の重要文化財「旧中笠家住宅」も本年中には保存修繕工事が

完了し、皆さんにご覧いただけることとなります。

これにより、半田赤レンガ建物や半田運河周辺の観光施設に、新美南吉記念館などの文化施設とあわせて年間を通じた誘客の基盤が整い、観光客数も順調に増えています。

これらの施設では、観光協会や商工会議所、市民活動団体と連携し、四季折々の企画が開催されています。

今後も、観光キャンペーンを通じて、何度訪れても飽きない、また行きたくなるまちの実現のため創意工夫を重ねてまいります。

ずっと住みたいいまち

住み続けたいまちの条件として、安全・安心と、交通の利便性が挙げられます。

震災への備えでは、昨年4月に発生した熊本地震を教訓に、避難所における要配慮者の支援や、物資の充実など、万全な体制を整えてまいります。

新半田病院の建設は、知多半島の中核病院としての機能強化はもとより、周辺環境の整備も重要課題であ

ります。

例えば、愛知県からは「市役所西側の県道碧南半田常滑線は、災害時には最優先で復旧作業に当たる第1次緊急輸送道路に指定されており、東雲橋についても、救助、消防活動、緊急物資の輸送、あわせて、救急輸送車両の円滑な移動が可能となるよう、新病院開院前に耐震改修を完了するよう努める」との説明をいただいています。

災害時においても、安全・安心な医療が提供できるよう、関係各機関の協力も仰ぎながら、新半田病院建設を進めてまいります。

交通の利便性については、ライフステージによりさまざまですが、自家用車を使われない方々への、市内交通の充実が求められています。

市民生活を支える新たな基幹路線バスの運行や、既存の路線バスの運行経路の見直しなど、本市に合った持続可能な交通体系の構築を早急に進めてまいります。

いつかは住みたいいまち

まちの魅力を効果的にアピールし

ていくためには、市民の皆さんや企業の皆さんにもご協力いただくことが必要不可欠です。

できるだけ多くの方々といっしょに半田のまちを広く発信していくための取り組みとして、「ふるさと半田応援団会議」を組織しました。

現在、50名を超える皆さんにご参加をいただきながら、シティブロモーション戦略の策定に取り組んでいます。

3月には、戦略のお披露目をさせていただきますので、ぜひ多くの皆さんにご参加いただき、今後の活動にご協力いただければ幸いです。

さて、本年は市制施行80周年の記念の年に当たります。

この節目の年を「第八回はんだ山車まつり」を始めとした各種記念事業を市民の皆さんといっしょにお祝いし、半田市が、さらに10年、20年と発展し続けていけるよう盛り上げていくとともに、国内外に向けて本市をアピールできる絶好の機会ととらえ、「いつかは住みたいいまち」となるようブランド構築に取り組んでまいります。

最後に、市民の皆さんにとりまして、健康で明るく幸多き年になりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。